

野生鳥獣保護管理技術者育成研修(カワウ)講義資料

この講義資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Webでの掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

2008年度 野生鳥獣保護管理技術者育成研修会(カワウ)

対 象: 都道府県の鳥獣行政担当者、水産行政担当者、内水面漁業関係者、その他
カワウの保護管理、調査、被害防除に関わる者

開 催 日: 2009年2月16日(月)～2月18日(水) 2泊3日

場 所: カリアック(静岡県浜松市)

講師と科目: 加藤ななえ(カワウの生態)

: 徳田裕之(特定鳥獣保護管理計画とカワウの広域保護管理)

: 鉢嶺朗(カワウ対策に充てられる補助金と鳥獣害防止特措法について)

: 秋山雄司・谷高弘記(天然アユを増やす為の取り組みとカワウ食害対策事業)

: 島軒治夫(山形県内水面漁連のカワウ対策の取り組み)

: 北川捷康(静岡県におけるカワウの生息状況の変遷)

: 高木憲太郎(地域実施計画とは?)

: 岡部晋治(静岡県カワウ保護管理の体制と実施計画)

: 藍憲一郎(夷隅川・養老川水系におけるカワウの食性調査および被害量の算定)

: 坪井潤一(カワウ漁業被害防止の取り組み ～餌場での捕獲と飛来防止対策～)

野 外 実 習: 天竜川(静岡県) カワウの追い払い体験とアユの遡上調査の視察

: 浜名湖(静岡県) 湖畔のねぐらでのねぐら入り見学

現地説明者: 天竜川漁業協同組合

: 北川捷康

: NPO 法人バードリサーチ

(5) 山形県山形県内水面漁連のカワウ対策の取り組み

山形県内水面漁業協同組合連合会
島軒 治夫

平成 15 年（2003）頃から、福島県堺の国道 13 号栗子峠付近を水源とした米沢市刈安地区にある、水窪ダム（かんがいダム、総貯水量 3,100 万 m³）湖面に 4 羽のカワウ飛来があることを、釣り人からの情報により確認したところ、ほぼ毎日飛来している事がわかりました。

当時、福島県では、カワウによる漁業被害問題の対策を実施されている時期でありました。

当ダムは、最上川の最上流部に位置している事から、下流部への飛来拡大を警戒し、観察を続けてきましたが、翌年の平成 16 年頃までは、飛来数の動向は見られませんでした。平成 17 年春季頃から飛来数が拡大し、ダム下流の河川でも確認されるようになり、最上川上流域の置賜地区全域、平成 18 年秋季には下流の庄内域にまで拡大しました。

山形県漁連では、天然アユの遡上促進を目的とした、アユ親魚の降下時期に合わせ、5 年前（平成 16 年）から県内全河川でアユ漁業全ての禁漁を実施し、調査を続け効果が確認されていますが、昨年（平成 20 年）の産卵時期には、最上川河口より約 20km 上流の産卵場で約 200 羽のカワウの捕食が確認され、数日間追い払いを実施したが被害も大きいものと推測されます。

又、営巣地も平成 16 年に川西町の鯉養殖溜池で確認され、その後最上川では長井市と川西町に、また飯豊町の白川ダムでも確認され、生息数も増加傾向にあります。

平成 18 年 5 月に、県漁連の漁業関係者 7 名・試験研究機関 1 名・行政機関 2 名により、「内水面外来魚等駆除対策検討会」を設立しカワウ対策を主体に取り組んできました。

取り組み内容

- ① 県内飛来数一斉調査 （実施要領）
- ② 漁業被害調査 （実施要領）
- ③ ねぐら・営巣地調査 （実施要領）
- ④ 追い払い実施 （実施要領）
- ⑤ 銃器による捕獲 （実施要領）

これまでの調査結果から、生息数、生息域共に拡大していることが分かり、特に生息域が北上傾向にあり、深刻な状況になってきています。

営巣地については確認されていますが、ねぐらは現在見つかってなく随時ねぐら探索を継続し対応することとしています。

追い払いについてはアユ放流後、7 月 1 日のアユ釣り解禁までの期間を重点に、ロケット花火や、テグス張り等での実施を強化し、アユ漁業被害防止を推進してきました。

銃器による河川等流域での捕獲は難しく効果が望めないことから、繁殖期の営巣地での捕獲の実施を今後も継続しながら、中長期的な個体数管理のあり方を検討していきたいと考えています。

山形県内水面漁連の カワウ対策の取り組み

山形県内水面漁業協同組合連合会

取り組みの経緯

1. H18年、内水面外来魚等駆除対策検討会
漁連と県行政により結成(10名)
2. 県内河川、湖沼における飛来調査開始
6月、9月、2回一斉調査
3. 個体数の管理
4. 捕食調査(胃内容)
5. 各取り組みにおける実施要領設定(H20)

各種実施要領 (参考資料添付)

1. 県内飛来一斉調査実施要領
2. 漁業被害調査実施要領
3. ねぐら・営巣地調査実施要領
4. 追払い実施要領
5. 銃器による捕獲実施要綱

山形県で最初にカワウが確認された地域



山形県米沢市刈安地区 (福島県界より10km)

水窪ダムのワカサギ釣り



結氷前のワカサギ釣り



水窪ダム(H19)

25~30羽 (5月~9月)



山形県で最初に発見された営巣(H16)



養鯉ため池(川西町) 青サギとカワウが混在

営巣地(H19)



最上川(川西町) カワウのみの営巣・捕獲地



営巣地(H18)



最上川(長井市) 青サギ・カワウが混在・捕獲地



営巣地(H19)



白川ダム中州(飯豊町) カワウのみの営巣・捕獲地

カワウ生息調査カード

| カワウ一斉調査カード | 調査年月日 | 平成 | 年 | 月 | 日() | | | | | |
|------------|--------|---------|----|-----|---------|----|-----|----|----|----|
| 調査員所属 | 漁業協同組合 | 氏名 | | | | | | | | |
| 調査河川 | 調査地点 | | | | | | | | | |
| 時刻 | カワウの数 | 飛んで来た方向 | | | 飛び去った方向 | | | 捕食 | 営巣 | 備考 |
| | | 上流 | 下流 | その他 | 上流 | 下流 | その他 | | | |
| 時 分 | 羽 | | | | | | | | | |
| 時 分 | 羽 | | | | | | | | | |
| 時 分 | 羽 | | | | | | | | | |
| 時 分 | 羽 | | | | | | | | | |
| 時 分 | 羽 | | | | | | | | | |
| 時 分 | 羽 | | | | | | | | | |
| 時 分 | 羽 | | | | | | | | | |
| 【特記事項】 | | | | | | | | | | |

(注) 飛んで来た方向・飛び去った方向・捕食・営巣の欄には、該当するところに 印を記入して下さい。
備考欄には観察したときのカワウの様子を記入して下さい。(かなり高い所を群れて飛んで来た若しくは飛んでいった・川岸近くの木の枝に止まっている・川岸で休んでいる・近づいたら逃げていった etc.)

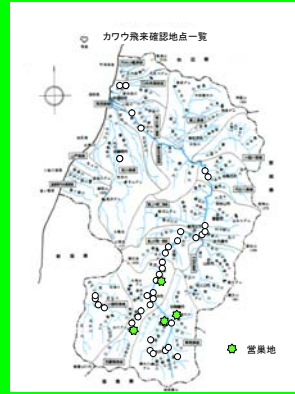
カワウねぐら調査カード

| | | | | | | | |
|-----------|-----|-------|----|----|---|------|-----|
| 調査場所 | | 調査年月日 | 平成 | 年 | 月 | 日() | 調査員 |
| 調査班の編成 | | 班編成の第 | 班 | 氏名 | | | |
| 時刻 | 記 録 | | | | | | |
| 時 分 | | | | | | | |
| 時 分 | | | | | | | |
| 時 分 | | | | | | | |
| 時 分 | | | | | | | |
| 時 分 | | | | | | | |
| 【その他特記事項】 | | | | | | | |

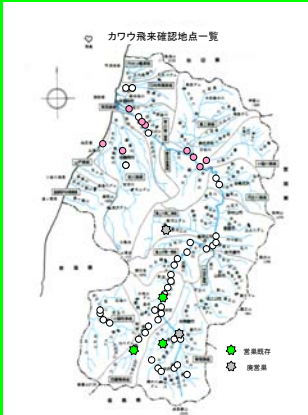
(記録欄の記入例)

他の班に連続した事項、又は他の班から連絡を受けた事項を記録する。
第1班は、カワウを確認したときの様子や飛び去った方向を記録する。
他の班は、カワウを確認した方向や飛び去った(見失った)方向を記録する。
ねぐら又は営巣を確認した場合は、その場所を記録する。また、他の集団の有無等を記録する。

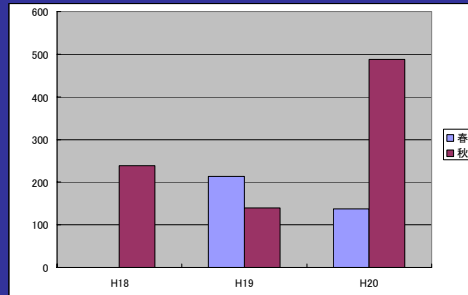
生息分布推移(H18)



生息分布推移(H20)



カワウ生息推移



個体数管理

捕獲数

| | |
|-------|-----|
| 平成18年 | 38羽 |
| 平成19年 | 63羽 |
| 平成20年 | 79羽 |

捕獲実施時の対応

1. 捕獲区域に看板設置
2. 監視員配置
3. 区域近くの住民に対し事前通知
(狩猟期間外で銃声を発するため)



捕食調査(胃内容)

捕獲日時 平成19年4月15日 午前5時
捕獲場所 最上川 (川西町)
(銃器による捕獲)
捕獲数 45羽



捕獲直後



約20cmのウグイ

胃切開(家畜研究所)



オスの胃内

胃内容(メス)



ウグイ・フナ・オイカワ・ニゴイ(350g)

捕食調査(冬季捕獲)

捕獲日時 平成20年12月5日 午後3時
(鴨狩猟時銃器による捕獲)
採捕場所 鬼面川 熊野橋付近(高島町)
検体 カワウ 成鳥 (性別不明)

形体 体長 79cm
翼全長 128cm
体重 2.2kg



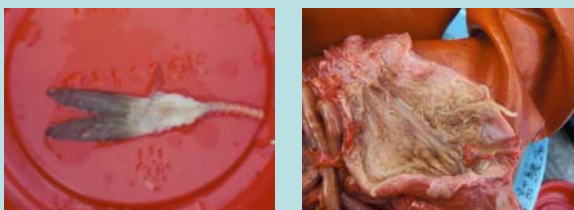
胃切開



胃と腸を摘出



胃内容



消化したニゴイ(約20cm)一尾

胃内拡大図



カワウ解体用器具



解剖説明



アユ産卵場での捕食(最上川下流域)
(H20.10上旬)



カワウと青サギの捕食



アユ産卵場で捕食. 青サギと混在(最上川下流域)



H20・10月上旬(約200羽)

カワウのコロニー
(岩手県、北上川和賀川合流付近)
(和賀川淡水漁協提供 H20.6.1)



今後の課題

1. 生息数の調査方法の見直し
2. ねぐらの発見
3. アユ放流後の捕食(検体捕獲)調査